

基本理念：「安心できる暮らしの実現」		ライフステージごとの行動目標					計画策定時	目標値	平成30年度の現状と取り組み (主なもの)	課題と今後の方向性			
全体目標		乳幼児期 (0～3歳)	幼児・児童・生徒 (4～15歳)	青年期 (16～39歳)	壮年期 (40～64歳)	高齢期 (65歳以上)	2017年	2022年					
生涯、健康に暮らせるまちづくり		「規則正しい生活習慣の確立」					「いつまでも社会生活を自分らしく営むための生活習慣の継続」						
基本方針		項目ごとの重点目標					評価指標(主なもの)						
生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底	がん	① がん死亡率の減少 ② がん検診受診率の向上	早寝・早起き・朝ごはんを実践する	早寝・早起き・朝ごはんを実践する	朝食を食べる	朝食を食べる	聖籠町まるごと食育推進計画参照						
	循環器疾患	① 脳血管疾患・虚血性心疾患の死亡率の減少 ② 高血圧有病者の増加の抑制 ③ 脂質代謝異常有病者の増加の抑制 ④ 特定健診受診率の向上 ⑤ メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の減少	食品や献立に興味を持ち、いろいろな食事体験をする	バランスの良い食事をする	主食・主菜・副菜をそろえた食事をする 脂肪・糖分・塩分をとりすぎない	健康のための適正飲酒・休肝日を実践する	聖籠町まるごと食育推進計画参照						
	身体活動・運動	「いつまでも体を動かすことを楽しもう」	外へ出かける 親子遊びをおとして体を動かす楽しさを体験する	通学時はしっかり歩く 外で体を動かす遊びをする 様々なスポーツを体験する	自分に適した体力の維持増進方法を身につける 親子で運動やスポーツを楽しむ	自分に適した体力の維持方法を身につける 仕事以外に生きがいや趣味を持つ	生きがいや趣味を続ける 地域活動等に積極的に参加する 日中は外に出て、積極的に歩く	聖籠町まるごと食育推進計画参照					
	糖尿病	① 糖尿病有病者の増加の抑制 ② 血糖コントロール不良者(HbA1c8.0%以上)の減少 ③ 合併症の減少(糖尿病腎症による新規透析導入患者数の減少)	規則正しい生活リズムを身につける 母を中心とした他者との愛着をより深める	自分のからだとところを大切に、他者への思いやりをもつ	ライフスタイルに合わせた望ましいストレス対処方法を実践できる	こころの健康を維持し、生きがいを持ち続ける	聖籠町まるごと食育推進計画参照						
	健康維持・増進するための取り組みの推進	たばこ「たばこの害を知り、喫煙防止・禁煙に取り組もう」	周りの大人が喫煙しない たばこの害について知識を持つ 喫煙をすすめても断る 周りの大人が喫煙しない	たばこの害について知識を持つ 喫煙をすすめても断る 周りの大人が喫煙しない	健康のために喫煙しない 禁煙に取り組む 喫煙者は周りに配慮ができる	妊婦の喫煙率 未成年の喫煙率 受動喫煙(行政機関)	男性41.3% 女性31.3% 小学生51.8% 中学生51.0% 119,719人 2コース	男性46.0% 女性40.0% 小学生57%以上 中学生57%以上 7歳以上人口の10倍 3コース	聖籠町まるごと食育推進計画参照				
健康維持・増進するための取り組みの推進	アルコール「アルコールの適量を知り、上手に付き合おう」	母親が妊娠中・授乳中に飲酒をしない 飲酒をすすめても断る 周りの大人が飲酒をすすめない	アルコールの害について知識を持つ 飲酒をすすめても断る 周りの大人が飲酒をすすめない	健康のための適正飲酒・休肝日を実践する	妊婦の飲酒率 未成年の飲酒率 飲酒頻度(毎日) 生活習慣病リスクが高まる量の飲酒	0.0% 15.40% 男性46.9% 女性12.1% 男性26.2% 女性13.9%	0% 0% 男性30%以下 女性5%以下 男性20.0% 女性10.0%	聖籠町まるごと食育推進計画参照					
そ町民を主役の健康づくりと環境整備と	① 健康づくりに積極的に取り組む町民の増加 ② 健康づくりに関する地区組織活動の活性化 ③ 地域のつながりを意識した、地区ごと(コミュニティ単位)の取り組み ④ 情報の発信 ⑤ 他関係部署・関係団体と協働の取り組み ⑥ 民間企業と協働の取り組み	歯の健康「いつまでも自分の歯で快適な生活を送ろう」	食後と寝る前の歯みがきの習慣を身につける 小学校6年生まで1日1回は大人が仕上げみがきを行う おやつは大人が時間や内容を決め与える	食後と寝る前の歯みがきの習慣を身につける 小学校6年生まで1日1回は大人が仕上げみがきを行う むし歯は必ず歯科医院で治療を完了する	かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診を受ける 食後と寝る前の歯みがきの習慣を継続する 歯間ブラシ、デンタルフロス、舌ブラシ、フッ化物歯磨き粉等を使用し、歯間・口腔内を清掃する	聖籠町生涯歯科保健計画参照							
健康管理「自分の健康状態を知り、生活習慣病の早期発見・早期治療で重症化を予防しよう」	① 健康づくりに積極的に取り組む町民の増加 ② 健康づくりに関する地区組織活動の活性化 ③ 地域のつながりを意識した、地区ごと(コミュニティ単位)の取り組み ④ 情報の発信 ⑤ 他関係部署・関係団体と協働の取り組み ⑥ 民間企業と協働の取り組み	健康管理「自分の健康状態を知り、生活習慣病の早期発見・早期治療で重症化を予防しよう」	規則正しい生活リズムを家族ぐるみで実践できる 定期的な身体測定をする	規則正しい生活リズムを家族ぐるみで実践できる 定期的な身体測定をする	規則正しい生活リズムを実践する 定期的な身体測定・血圧測定をする 必要受療行動をとれる	活用塾参加者率 聖籠町が実施する胃がん検診受診率 聖籠町が実施する大腸がん検診受診率 聖籠町が実施する子宮頸がん検診受診率 聖籠町が実施する乳がん検診受診率	10.4% 10.3% 15.7% 19.3% 21.5%	13.0% 12.0% 18.0% 21.0% 23.0%	聖籠町生涯歯科保健計画参照				

基本理念：「安心できる暮らしの実現」				計画策定時	目標値	平成30年度の現状と取り組み (主なもの)	課題と今後の方向性	
基本目標	ライフステージに応じた行動目標	評価指標 (主なもの)		2017年	2022年			
<p>聖籠町の産物を活かし他職生活で、家庭や地域の健康とコミュニケーションを育てよう</p> <p>基本方針</p>								
<p>「命の原点」 食を通じた健康づくりを実践します</p> <p>「地域の食文化」 郷土食や食文化とともにふるさとを愛する心を次世代に伝承します</p> <p>「地産地食」 食の生産、流通、消費について理解を深め、地域の活性化を図ります</p> <p>「食は味楽来」 食事の重要性、食事の喜び、楽しさを推進します</p>	<p>「乳幼児期」 ・早寝、早起き、朝ごはんを実践する ・食品や献立に興味を持ち、色々な食事体験をする ・一家団らんで楽しく、おいしく食事をする</p> <p>「園児・児童・生徒期」 ・早寝、早起き、朝ごはんを実践する ・主食、主菜、副菜をそろえたバランスの良い食事をする ・一家団らんで楽しく、おいしく食事をする ・食に関する知識の習得や健康に配慮した食を選択できる力を身につける ・農業、漁業体験に積極的に参加し、地域特性や特産物を知る ・郷土料理や伝承料理等、食文化の関心や理解を深める</p> <p>「青年期・壮年期」 ・朝食を食べる ・主食、主菜、副菜をそろえた日本型食生活をする ・脂肪、糖分、塩分をとりすぎない ・健康のための適正飲酒、休肝日を実践する ・家族や仲間と食事を楽しむ ・安全、安心な食品を選択する、食べ残しが出ない計画的な買い物や料理をするなど「環境意識の高い消費者」になる ・地場物産の魅力や特徴を理解し、地場物産を生かした郷土料理、食文化を次世代に伝える</p> <p>「高齢期」 ・朝食を食べる ・多様な食品で過不足なくバランスのとれた食事をする ・脂肪、糖分、塩分をとりすぎない ・健康のための適正飲酒、休肝日を実践する ・家族や仲間と食事を楽しむ ・安全、安心な食品を選択する、食べ残しが出ない計画的な買い物や料理をするなど「環境意識の高い消費者」になる ・地場物産の魅力や特徴を理解し、地場物産を生かした郷土料理、食文化を次世代に伝える</p>	朝食の欠食率	小学生	11.10%	0.00%	<p>・中学生の朝食の欠食率は上昇しているが、週に1~2回欠食する者が増えたため、週に4~5日食べない、ほとんど食べない者は増えていない。</p> <p>・小さいころからの望ましい食習慣の定着に向けて、こども園への食育劇で「朝ごはんを食べる大切さ」をテーマにした内容で実施した。また、広報等に実施内容や開催日程を載せ、広く周知した。</p> <p>・小中学生の肥満については小学生になってからではなく、こども園の発育測定時から課題のある子には個別で面談等を実施した。(乳幼児期からの継続として、保健福祉課、子ども教育課の管理栄養士同士で連携し切れ間なく実施している。)</p> <p>・減塩生活の意識づけと定着に向け減塩月間を開催し、「健診結果活用塾」や「学校給食」、「健康づくり支援店との協働」と幅広い年代へ向けた周知を実施した。</p> <p>・シルバー世代向け減塩推進事業を町食生活改善推進委員会が中心となり実施した。(二本松地区)</p> <p>・健康づくり支援店は2店申請中で3月末までには登録完了予定。</p> <p>・健康的な食環境整備に向け、減塩月間等で連携がある2店舗外、次年度はさらにもう1店舗と町の健康づくり事業と連携について話し合いを進めている。</p> <p>・町食生活改善推進協議会で「災害食の研修会」を実施した。</p>	<p>・小中学生には、休日もバランスよく、朝食も摂取することを指導する必要がある。</p> <p>・主食・主菜・副菜をそろえた日本型の食生活や特に野菜摂取等の健康的な食生活への取り組みは、どの年代でも課題であり、幅広い年代に向けた普及啓発を今後も継続する。特に働き盛り世代や若い世代への周知方法が難しい。</p> <p>・今後は既存の事業等にも「減塩に関する内容」を町の重点テーマとして盛り込み、幅広い年代に向けた普及啓発に力を入れていく。</p> <p>・健康づくり支援店等を活用し、町の取組の理解を求め、行政だけでなく飲食店・小売販売業者等からも情報を発信してもらう協力体制を強化する。</p> <p>・家庭での食料備蓄率は課題が大きく、平時からの災害時の栄養・食生活を考える機会を地域の中で作り、防災力を高める必要がある。「災害食の研修会」を町民向けにも計画していく。</p>	
			中学生	9.60%	0.00%			
			男性20歳代	28.0%	15.0%以下			
			男性30歳代	26.8%	15.0%以下			
			女性20歳代	11.9%	現状値以下			
			女性30歳代	6.8%	5.0%以下			
			1日2回は主食・主菜・副菜のある食事をする人の割合	男性	68.1%			80.0%
				女性	77.6%			80.0%
			野菜・きのこ・海藻を1日に3皿以上食べる人の割合	男性	21.7%			現状値以上
				女性	39.8%			現状値以上
	減塩に取り組んでいる人の割合	男性	42.8%	47.1%				
		女性	64.9%	71.4%				
	学校給食における聖籠産物使用割合		*2	現状値維持				
			野菜20.3%	現状値維持				
	食材の安全性や生産地等の考慮(いつもしている)	男性	16.3%	50%以上				
		女性	33.7%	50%以上				
	町の健康づくり事業に協働する健康づくり支援店等		2店舗	5店舗				
	食に関するサポーターの増加	食生活改善推進協議会会員数	27名	現状維持				
		地域支援登録者数(食文化郷土・農)	78名	100名				
	食育への関心(関心がある・どちらかといえば関心がある)		62.9%	69.2%				
	食育の実践度(積極的、できるだけするようにしている)(再掲)		28.1%	60%				
	1人で(子どもだけで)食事をする者の割合	こども園	20.0%	現状値以下				
		小学校	19.3%					
		中学校	35.0%					

基本理念：「安心できる暮らしの実現」		評価指標 (主なもの)	計画策定時		平成30年度の現状と 取り組み (主なもの)	課題と今後の方向性	
基本目標	ライフステージに応じた行動目標		2017年	目標値			
いつまでも自分の歯で快適な生活を送ろう			2022年				
基本方針							
『むし歯・歯周病予防と口腔機能維持の徹底』	「乳幼児期」 ・寝かせた姿勢で仕上げみがきを行う ・おやつ（間食）は大人が時間や内容を決め与える ・食べ物をよく噛んで食べる 「園児・児童・生徒期」 ・食後と寝る前の歯みがき習慣を身につける ・小学校6年生まで1日1回は大人が仕上げみがきを行う ・むし歯は必ず歯科医院で治療を完了する ・望ましい食事と間食の習慣を身につける ・食べ物をよく噛んで食べる 「青年期・壮年期・高齢期」 ・かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診を受ける ・食後と寝る前の歯みがきの習慣を継続する ・歯間ブラシ、デンタルフロス、舌ブラシ、フッ化物歯みがき粉等を使用し、歯間・口腔内を清掃する ・歯や口の健康を維持するバランスのとれた食事と間食を実践する ・一口30回は噛んで食べる習慣を身につける	歯石の除去や歯面清掃の歯科医院での受診(定期的に行っている)	全体	19.00%	25.00%	・むし歯のない3歳はやや減少傾向だが、1歳6か月児では統計上はじめてむし歯がない年であった。 ・3歳から5歳の間でむし歯をもつ児が増えている。 ・当町は12歳のむし歯がワーストレベルであるが、今年度は改善している。当町は小3からむし歯をもつ児童が県平均を大幅に上回っているが、今年度は改善されている。 ・妊婦歯科健診は、今年度よりマタニティ教室と同時開催した事で受診率が向上している。受診者が参加しやすい体制づくりが影響したと思われる。 ・成人歯科健診の受診率は横ばいであるが、健診受診者で歯周病有所見者が8割位で推移している。歯周病は自覚症状がないため、この健診が早期発見、早期治療につながっている。 ・特定健診に咀嚼能力判定検査(1回)を実施。(検査用ガムを3分間噛む事で噛む力を測定する)(参加者:38名)よく噛む事の大切さは謳われているが、自分の状況を把握でき好評だった。また歯科衛生士による歯科指導実施により、生活習慣の改善、受診への意識付けにつながった様子である。	・子どもの各歯科健診の受診率も90%近くに上昇、3歳の仕上げみがきも2回以上が53%、甘味飲料を飲まない児も18.3%と改善するなど、全体的には歯に良い生活習慣が定着しつつある層も見られる。むし歯のある児に対しては悪化予防、生活改善に向けた指導を今後も継続的に行っていく。 ・幼児期からかかりつけ歯科医をもち、生涯を通じて健診を受ける習慣が身につくように普及啓発をしていく。 ・3歳から5歳、小学校3年生以上にむし歯の有所見者が増加するため、地域学校保健委員会等で学校保健や地域住民と課題を共有し、取り組みを共に考える。 ・12歳児むし歯本数の改善の要因の検証をしっかりと行う。 ・妊娠期から子どもの歯についての関心を高めるために、妊娠届出時や妊婦学級の間を活用し普及啓発を図る。 ・大人の歯周病健診の受診率を向上させるため、今後も広報や個別通知等を継続し、今まで歯科受診していない町民への受診行動へ結び付ける。 ・高齢者の介護予防と歯・口の健康は関連しており、いくつになっても定期歯科健診やセルフケアが重要であることの周知を強化する。
		自分の歯の本数	24本以上60歳(55歳~64歳)	81.10%	90.00%		
			20本以上70歳(65歳~74歳)	62.30%	65.00%		
			20本以上80歳(75歳~84歳)	32.30%	35.00%		
		歯みがき時の歯間部清掃器具の使用	全体	45.10%	50.00%		
		一口30回かんで食べる意識	全体	14.00%	15.00%		
		過去1年間に歯科健康診査を受診した者の増加	全体	52.20%	55.00%		
		むし歯のない3歳の割合	全体	*1 95.7%	96.00%		
		甘味飲料を飲まない3歳児	全体	12.60%	31.00%		
		フッ化物歯面塗布を受けたことがある幼児の割合(1~4歳)	全体	*1 88.20%	90.00%		
		むし歯のない5歳の割合	全体	*1 62.00%	68.00%		
		仕上げみがきがされている幼児の割合(こども園児)	全体	86.00%	95.00%		
		12歳児一人平均むし歯本数	全体	*1 1.13本	1.00本		
		12歳児のうち蝕のない者の増加	全体	*1 53.90%	59.00%		
妊婦歯科健診の受診率	全体	29.00%	40.00%				
成人歯科歯周疾患健診の受診率	全体	11.20%	12.00%				
在宅用介護者等訪問歯科健診の件数(県事業)	全体	0件	増加				

*1 平成28年度
*2 平成29年度